



**お元気ですか！**  
**志村 たかよし**です

第819号 2016年12月18日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1  
電話 3546-5563  
FAX 3546-9570

## 住民票・印鑑登録票「自動交付機」終了に反対 「マイナンバーカード普及目的」の強引なやり方を批判



中央区役所に設置されている自動交付機

### 自動交付機の継続を要求

11月28日の区民文教委員会で、来年10月末で、区民カードを利用した住民票の写し及び印鑑登録証明書の自動交付機による交付を終了する条例案が、日本共産党以外の賛成で可決されました。

これにより、来年11月以降は、マイナンバーカードがない方は、窓口で手続きするか、マイナンバーカードを作成してコンビニを利用する必要があります。

コンビニ交付はわずか3・8%

今年の4月1日から開始された

マイナンバーカード利用のコンビニ交付件数（4月～10月の7ヶ月間）が、わずか1376枚であるのに対し、自動交付機による交付件数は25倍の34540枚でした。

コンビニと自動交付機の交付合計35916枚のうち、コンビニ交付は、わずか3・8%しかなく、約96%の方は、コンビニ交付を利用していません。

窓口混雑をさけるための「マイナンバーカード作成」へと誘導

このような状態では窓口業務が大変な混雑になることが予想され、混雑がいやな人は、マイナンバーカードを新たに作成しなければなりません。

中央区でのマイナンバーカードの普及は約1割です。

使わない、使いたくない方が圧倒的多数というなかで、自動交付機運用終了は、区民サービスを著しく低下させるものです。

### 区民の声を聞かずに決定

区は委員会で、「事前に区民の声を聞かなかったこと」「マイナンバーカードの普及を目的としていること」を認めました。

マイナンバー制度については、これまで、莫大な経費、未配達「通知カード」の問題、システム・トラブルの問題、個人情報漏えいや詐欺などの犯罪に使われる危険性、社会保障切り捨てにつながる問題などを指摘してきました。

区は「自動交付機の運用を併用すると経費がかかる」と説明していますが、そもそも、マイナンバー制度の維持管理をはじめとする運用自体に、継続的な税金投入が強いられます。

私は「マイナンバーカードを持ちたくない人をもカード作成へと強引に誘導するやり方はやめるべき」「区民にはマイナンバーカードを使いたい方、使いたくない方、どちらもある。自動交付機の運用を継続すべき」「なくすべきは自動交付機ではなくマイナンバー制度」と批判し、反対しました。

# 跡 追 豊洲 新市場

崩れた「安全神話」

⑩

## 築地市場から(下)

「土壌汚染地に魚市場をつくるな！」

2006年10月。豊洲への移転に反対する声が築地周辺に響きわたりました。

「デモは生まれて初めて」という業者のおかみさんなど千人超が集まりました。

01年の移転決定から初めて。その後、デモなどを繰り返してきました。

呼びかけたのは業者でつくる「市場を考える会」。デモ数カ月前に数人で発足しました。

## セリ場中の話題

発足時のメンバーでマグロ仲卸「野末商店」元社長の野末誠さん(79)は「都は欺瞞(きまへん)と隠蔽(いんぺい)を繰り返してきた。食文化を滅ぼす犯罪

だ。なぜ毒のある所に生鮮食品市場をもってくるのか。初めからおかしな話だった」と痛烈に批判します。都側は「法に基づいている」と繰り返すばかり。

「あなた方にとやかく言われる筋合いはない」という姿勢だった」と振り返ります。

全労連全国一般・東京中央市場労組も同じころ、計画や汚染について知らせるビラを市場内の全店に配り始めました。中澤誠委員長は「配っていると『おせーよ』なんて言われたけど、翌日セリ場中の話題になっていた」と話します。

都との交渉が難航するなか、中澤さんたちは「市民へ訴えるしかない」と運動を広げました。「守ろう！築地市場パレード実行委員会」を結成。女性や農民間体も参加しました。

# 魚河岸が声をあげた



土壌汚染地への移転反対をアピールする市場関係者の人たち。2006年10月11日、東京・中央区

日本消費者連盟の額瀨(ごうけつ)美千世事務局長は「食べ物は体をつくるだけでなく次世代にもかかわる。汚染地への移転は絶対に認められない」と加わった経過を語ります。

業者らの訴えに一切耳を貸さない都。運動は一時下を凍結すべき」と答えた。

運動は一時下を凍結すべき」と答えた。

火になりながらも続きました。独自調査で汚染の隠蔽も暴きました。

「パレード実行委員会」と「築地市場・有志の会」は今年4月に業者アンケートを実施。8割が「土壌汚染問題が解決するまで移転を凍結すべき」と答えた。

8月5日には新市場建物内の空気のベンゼン汚染を本紙がスクープ。本紙記事コピーが大量に配られると、市場内に激震が走りまわりました。業者らは小池百合子知事に移転延期を要望。知事の延期発表へとつながりました。

## 誰のためなのか

中澤さんは「負けると思っただことは一度もない。運動をつないでいけば相手は絶対にドジを踏む。それだけでたらめなことをやっているのだから」と語ります。一体、誰の、何のための計画なのか。中澤さんは言います。

「築地を更地にして開発をしたい人間と、汚染され誰も欲しがらなかった東京ガス跡地を売りたい人間がいた。利益が合致した両者が一山当てようと魚屋をだました。そして都民、国民をも欺いた」(つづく)

「意見」「要望」など、お気軽に「」連絡ください(career@nippo.co.jp)